

講義名	スポーツ科学演習 B (ゴルフ)			授業形態	
担当教員	坂井 隆秀	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

ゴルフは、手軽に行うことの出来るスポーツとして以前とは異なり環境が整備されてきた。そのため性別年代を問わず広く楽しむ生涯スポーツのひとつとして捉えられている。しかし皆が気持ちよくゴルフを楽しむためには、技術の習得のみならず、ルール・マナーを守ることにより、お互いが気持ちよくプレーする事や、事故などのトラブルを回避することも学ばなければならない。本授業では、ゴルフの技術、ルール、マナーなど全般的な事を理解する。そして実践のために必要なプレーヤーとして正しい知識の習得を目的とする。

到達目標

1. 「健康」獲得の方法を修得できるようになる。
2. 歴史やルール、応用技術・基本戦術を理解し、説明できるようになる。
3. 応用技術・基本戦術を修得し、生涯にわたるスポーツ実践の礎とすることができるようになる。

提出課題

ゴルフプレーを円滑に実施するためのルール・マナーについて理解し、習得しているかレポートの提出を課します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出された課題・レポートに対してコメントをつけて返却します。

評価の基準

- * 授業実施時間数の 4 回以上欠席したものは単位を認定しない。
- * 授業中の評価：受講態度・実技点など・・・ 80%
- * 期末期の評価：レポート提出・・・ 20%

履修にあたっての注意・助言他

ゴルフ初級者を対象に授業を進めていきます。
参加者により授業内容を変更する場合があります。
授業前・後は必ずマスクを着用することとし、授業中については教員の指示に従うこと。

教科書

.使用しない。

参考図書

その他

授業計画

- 第 1 回 ガイダンス 本授業の目的、進め方、評価等について
- 第 2 - 3 回 スイングの確立 自分に合ったグリップやスタンスを見つけよう
- 第 4 回 アイアンスイング アイアンのスイングを知る
- 第 5 - 7 回 アイアンショット 様々なアイアンの実践
- 第 8 回 講義 映像を用い、様々な練習方法を学習する
- 第 9 回 ドライバーショット
- 第 10 回 フェアウェーウッドショット
- 第 11 - 13 回 コントロールショット アプローチ、バンカー、パッティングの実践
- 第 14 回 コースデビューのために コースデビューのシミュレーション
- 第 15 回 まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本学では、学期上、2単位を取得するためには、15回の授業と、1回の授業に対して4時間の予習・復習等の教室外学習が必要であるとされている。
紳士、淑女のスポーツとされる「ゴルフ」に触れるにあたり、ルールやマナーについて事前に理解を深めておくと共に、授業計画に従って、実施内容の技術をインターネット等を活用して調べておくこと。また、技術は一度の練習で身につくものではないので、毎授業後、繰り返し反復練習をすること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目を履修し、目標を達成することで、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の5項目および、健康スポーツ科学のキャリアラムポリシーへ貢献することができる。
業界や個人でスポーツ実践へ取り組む中で、明るく元気な、どのような場所でも物怖しすることなく、誰とでもしっかりと言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく立ち振る舞い、つまり「ネアカ」のびのび「へこたれず」の精神を育むことができる。また、問題点やその要因を発見し、自らが進んで取り組めるようになる。そして、他者に働きかけ、協力して課題へ取り組むことにより、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。
生涯にわたってスポーツに関わったり、健康の維持・増進に努めたりすることができるような知識を得て、理解することができる。
以上は、全学部・学科の所属学生へ共通している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

--

実務経験の有無及び活用

--

備考

--